

機関番号：32682

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242014

研究課題名（和文）軍縮と武器移転の総合的歴史研究 -軍拡・軍縮・再軍備の日欧米比較-

研究課題名（英文）Historical Studies on the Disarmament and Arms Transfer :

Military Expansion, Disarmament and Rearmament in the Histories of Japan, Europe and the United States

研究代表者

横井 勝彦 (YOKOI KATSUHIKO)

明治大学・商学部・教授

研究者番号：10201849

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：世界史・国際軍縮問題

1. 研究計画の概要

本研究は、イギリス、ドイツ、オーストリア＝ハンガリー帝国、アメリカ、日本の兵器産業と軍産関係ならびに武器移転の歴史に注目して、両大戦間期における軍縮破綻の構造を多角的・総合的な視点より解明することを目的としている。特に、武器移転の「送り手」と「受け手」の世界的な全体構造に焦点を当て、帝国史・国際関係史・経済史の総合化による軍縮問題研究の再構築を試みる。

2. 研究の進捗状況

本研究は、19世紀末から第二次大戦前夜までの日欧米における軍産関係の実態解明、軍縮の社会的経済的影響の解明、戦間期軍縮交渉の破綻原因の解明、以上の3点を主な課題としている。

2011年度も、以上の3課題に関する各研究分担者及び連携研究者の研究成果を確認した上で、引き続き、国内外の一次資料の調査・収集を進め、フォーラムや学会等での紹介に努める。

公開フォーラムとの関係では、この間、明治大学軍縮平和研究所主催の講演会を数回実施して、全国の研究者との連携を拡大することが出来たが、その一方では、会員制の兵器産業・武器移転フォーラム（東大経済学部）http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/Forum_AT.html も回を追って活発となり、兵器産業や武器移転の歴史に関心をもつ研究者の研究交流・情報交換・共同研究の場として、全国的に高い評価を得るようになってきた。同フォーラムは政治経済学・経済史学会の常設専門部会であるが、会員でなくても、この分野に関心を持つ研究者ならば、紹介状があれば誰でも自由に参加できる組織である。

ちなみに2011年4月23日には第23回目のフォーラムが開催され、西尾典子（九州大学大学院）「日本海軍と中小航空機製造会社」および土屋元（パリ第10大学大学院）「第一次大戦後フランス航空機産業と政府の調達行政」の報告がなされた。

本共同研究の基本テーマは「軍縮と武器移転」であるが、現時点ではこのテーマに関して「武器移転の国際的連鎖の構造」と「軍縮破綻の世界史的構造」の2点から研究を進めてきており、それをめぐる議論と資料の蓄積状況は、ほぼ当初の計画通りに進んでいると言えよう。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。

2009年9月には、本研究の研究分担者ならびに連携研究者が社会経済史学会全国大会（東洋大学）でパネル報告（論題「ドイツ第三帝国の軍拡政策と国際関係」）を行ない、さらに同年10月には本研究の別のメンバーが政治経済学・経済史学会秋季学術大会（岡山大学）でもパネル報告（論題「武器移転史のフロンティア」）を行なった。これらの報告は、すでに1冊の研究書として刊行する直前にある（2012年春刊行）。

また、2008年以来、欧米の研究者との研究交流の続けてきており、とりわけフロリダ州立大学歴史学部のジョナサン・グラント教授からは本共同の次期共著への寄稿論文もすでに届き、日本語への翻訳も概ね終了している。

4. 今後の研究の推進方策

2011年秋に予定されている政治経済学・経済史学会秋季学術大会（立命館大学）では、

本共同研究の他のメンバー（日本関連）によって3回目のパネル報告（論題「戦間期日本の兵器生産と軍縮問題」）を計画している。

以上の学会報告を踏まえて、出版計画（1）「武器移転の世界史」を実行に移す（本年9月入稿、2012年春刊行）。さらに出版計画（2）「戦間期日本の兵器生産と軍縮問題（仮題）」についても具体化するために、本年12月には広島県で研究会を開催し、研究メンバーの成果を最終確認する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

- ① Tadashi Kuramatsu, 'The Geneva Naval Conference of 1927: The US Preparation for the Conference, November 1926 to June 1927' 『青山国際政経論集』第83号、89-122頁、2011年、査読なし
- ② 奈倉文二 「第一次世界大戦期の日本爆発物会社と技術移転－英国政府及び出資者との関係を中心に－」 『軍事史学』第46巻第4号、61-78頁、2011年、査読有り。
- ③ 千田武志 「日清戦争期の呉軍港における兵器工場の建設と生産」 『軍事史学』第46巻第1号、42-60頁、2011年、査読有り。
- ④ 横井勝彦 「アジア航空機産業における国際技術移転史の研究」 『明治大学社会科学研究所紀要』第49巻第1号、45-65頁、2010年、査読有り。
- ⑤ 永岑三千輝 「ハイゼルベルクと原爆開発」 『横浜市立大学論叢』社会科学系列、第60巻第2・3合併号、133-148頁、2009年、査読なし。

〔学会発表〕（計6件）

- ① 田嶋信雄 「日本から見たドイツの戦争」 戦争史国際フォーラム「太平洋戦争とドイツの戦略」2010年9月28日（日本都市センターホテル）。
- ② 田嶋信雄 「ナチズム体制初期ドイツ高官の日本イメージ」 国際シンポジウム「日独関係の相互イメージ：想像・イメージ・ステレオタイプ」2010年12月4日・5日ドイツ東洋文化研究協会（OAG）。
- ③ 横井勝彦・田嶋信雄・西牟田祐二・永岑三千輝：2009年9月社会経済史学会全国大会（東洋大学）パネル報告（論題「ドイツ第三帝国の軍拡政策と国際関係」）。
- ④ 小野塚知二・竹内真人・高田馨里・高橋裕史：2009年10月政治経済学・経済史学会秋季学術大会（岡山大学）パネル報告（論題「武器移転史のフロンティア」）。

- ⑤ 千田武志・平間洋一・奈倉文二 「共通論題：日露戦争期の各海軍工廠の位置付けと役割」2009年軍事史学会年次大会報告（広島国際大学呉キャンパス）。

〔図書〕（計8件）

- ① 石島紀之・田嶋信雄・西村茂雄編『国際関係のなかの日中戦争』（慶応大学出版会、2011年（近刊：校正中）7月刊行予定）全432頁。
- ② 鈴木 淳 『科学技術政策』（山川出版社、2010年）、全120頁。
- ③ 奈倉文二 「近代日本経済資料論 6 英国企業史料－ヴィッカーズ史料を中心に－」241-257頁（石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 6 日本経済史研究入門』東京大学出版会、2010年所収）。
- ④ 奈倉文二 「鉄鋼寡占資本間競争とその変容」243-278頁（下谷政弘・鈴木恒夫編『講座・日本経営史 5 「経済大国」への軌跡 1955-1985』ミネルヴァ書房、2010年所収）
- ⑤ 西川純子 『アメリカ航空宇宙産業－歴史と現在－』（日本経済評論社、2008年）、全321頁。